

4人分隊で異世界に

国立

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

高校二年生の杉田将太（すぎたしょうた）はチームワークで戦うFPSゲーム（spuad battle）で3人のNPCを率いる分隊の隊長をしていた。

ある日、分隊を率いてミッションをクリアしたときある一通のメールが届くそこには「実際に分隊を率いて世界を駆け回りたくないか？」と書かれていた。

将太は「実勢にできたらやつてみたいな。」と冗談半分で返信しようと送信をクリックすると周りは森、森、森のところへ飛ばされ目の前には3人の美少女がナチスドイツの軍服とkar98を持ち立っていた。

少女が「ご主人様、ご命令を」言ってきて……

えっ？どういうこと？ご主人様って？

これは少女三人を率いて異世界を駆け回る話である。

処女作ですどうか温かい目で見守ってください!!

目次

## 分隊率いて異世界へ

120xx年 東京某所1

一人の高校生が自分の部屋でパソコンに向かってゲームをしていた、彼がやっているゲームはFPSゲーム(squad battle)である。

このゲームは今までのFPSとは違い、分隊、でのチームワークで戦うFPSであり装備もあらゆる年代ものが揃っているそれとオンラインで友達と攻略していくほかNPCを率いて攻略するプレーがある。

彼、杉田将太はNPC3人を率いてプレーをしていた。

「ふう、今日はここまでにするか。夏休みはまだまだあるからそろそろ寝よ。」

彼はそう言いパソコンの電源を落とそうとすると一通のメールが届いた

、実際に分隊を率いて世界を駆け回りたくないか？、

宛先不明のメールを見た将太は不気味に思ったがしかし体が動いてなんとなくその質問に返信してみた。

、実際にできたらやつてみたいな、

Enterキーをクリックして返信すると将太はベットに飛び込み寝た。

.....

将太は何かいつものベットと違う感じがし寝付けなくふつと目を覚ましてみると周りが森、森、森そして自分は草の上で寝ているではないかだから寝付けなかったのか・・・

「ちよーなんでこんなところで寝ているんだ!？」

すると女の子の声が聞こえた。

「ご主人様、ご命令を」

ご主人様？誰のことだと将太は思い周りを見渡すと女の子たち以外人はいない、すると必然的に俺がご主人様!?

「ご主人様、ご命令をお願いします。」

「ちよと！ちよつと待つてくれないか？君たちはだれなんだ？」

すると女の子たちは不満そうな顔をして

「ご主人様、ご自分の隊員をお忘れですか？」

「待つてくれ！それはどういうことだ!?!それにここはどこなんだ!?!」

「ご主人様、それはですね……」

〜説明中〜

ということなんです。」

「なるほど、ということは俺は日本と違う世界に飛ばされたというわけか。」

「まあ、ザックリ説明するとそうなりますね。」

彼女たちの説明ではここは日本があつた世界と違う世界で文明レベルは中世ヨーロッパぐらいで魔法が存在する世界で目の前の女の子たちはFPSゲーム（spuad battle）で俺の分隊の隊員らしい俺はゲームで使える武器、装備、車両、航空機がつかえるらしい。

「で、君たちの名前は？」

「はい、私はノアと申します。主に補給兵として分隊支援を行います。そして隣の子はルアと申します。主に整備兵として車両、航空機等を扱いをします。そして次の子はリアと申します。主に狙撃兵として長距離支援を行います。」

「なるほど、で なんでナチスドイツの格好なの？」

「ご主人様が一番好きな装備だからです。」

確かにFPSゲーム（spuad battle）でプレーするときによくナチの装備でやっていたなあ……って

「違う!!俺は元の世界に帰れないのか!?!」

「はい……私たちも帰り方がわかりませんどうすればいいか……」

「そうか、今の状況は？」

「はい、現在私たちがどこにいるか現在位置が不明です。弾薬等装備品は無限に使えるようです。しかし、食料等の糧食関係が全くありません。」

「そうか、食料調達が最優先事項だな。俺の装備はあるのか。」

「はい、こちらに」

するとノアはドイツの軍服とMP40を俺に渡してきた。

俺はすぐに着替えて出発準備をした。

「よし、行くか最初はこの森抜けるぞ。そこからは道探しだ。」

そういうと、おれらは森を抜けるため歩き出した。ちなみに先頭は俺、次にノア、リア、ルアの順に進んでいる。ノアには分隊支援火器としてMG42を携行させた。

そして分隊を率いて異世界へ・・・